

**櫻井** いいえ、企業の規模の大  
小ではなくて、どのような取り  
組みをしているかに重点をおい  
てしているので、新江さんのところ  
のように多方面で事業を開拓さ  
れている人は少ないよう見受け  
られます。先ずは事業の内容  
からお話ししていただけないで  
しょうか。



(株)ウェーブネット グループ

代表者  
新江 克之 氏

# 明日へ チャレンジ

●企業名	株式会社 ウェーブネット グループ	かほく市白尾ル 88
TELEPHONE(0803)1-139	FAX(076)(0803)1-1299	
300万円	●雇用従業員	8名
●代表者	新江克之氏(54歳)	
●創業年月	西暦2002年6月	
●事業種類	情報処理サービス業	
●取材広報委員	櫻井誠一	
●桜井木材		



が平成14年で今から10年前の丁度今頃になりますが、有限会社ウェーブネットとして、当初は、インターネット関連のビジネスを手掛けるつもりで起業し、地域企業などのホームページ作成などお世話をさせて頂いております。同時に、石川県の石川新情報書府という事業で伝統工芸や伝統文化などをデジタルデータに残す取り組み提案の公募が行われており、それに応募した結果、私のプレゼンテーションが採択されました。石川新情報書府「未来街道ものがたり」北前船がもたらした海の文化「」のDVDのプロデュースとホームページの制作をいたしました。

今月は、「地域の情報発信、交流促進」をテーマに地域のフリーペーパー・コミュニティラジオ・ビデオ映像制作、ホームページ活用・IT学習など多方面で事業展開している企業を紹介しています。

**新江** 横井 どのような理由で脱サラしたのですか。

特にこれという理由などはなかつたのですが、一般的に言われる「脱サラしてこれをやるぞ!」という意気込みがあつたわけではありません。私の父親が亡くなつたこと、それが人生を見直すきっかけになりました。もともと父親は織維業を営んでおりまして、私は中学、高校の頃まではその親の跡取り息子として織維業を継ぐものとばかり思つていました。ところが、商売上のことやオイルショックによる不景気、その他諸事情による将来性への不安があり、方向転換を迫られることになりました。その結果、父親が亡くなつてしまふまで約20年間は会社勤めをしていました。土地と建物がある。建物はだんだん壊れしていく。修理代、維持費に経費がかかる。何かに活かせるものなら活かしたい。金沢の会社で務めながら有効活用を考えるよりも退路を断つて地元で事業を考えようと思ったことや、自営業者の子は自営業者で、な

**櫻井** うとそれらが、脱サラにながつたように思います。

分かります。私も同じように父親が亡くなった時にいろいろ考えた結果、工場を建て直しました。それが45歳ぐらいの時だから新江さんと同じような年齢だったように思います。父親の死が人生を見つめなおす一つのタイミングでもありますね。

**新江** はい、翌年平成15年にはフリーペーパーの「かほくマガジン（季刊）」を発行しました。

地域限定の季刊誌で、当初は年4回でかほく市エリアのみの発行でしたが、その後、エリアを拡大し、津幡町、内灘町エリアにも配布し、拡大路線を考えました。ところが以前、ランチエスター戦略社長塾を受講したときに気が付いたのですが、身の丈に合った事業展開、拡大は方向性が大切だと考えるようになりました。リーマンショック等もあり、フリーペーパーの配布エリアを絞り込み、自社の強みの活かせる場所で、営業活動を行うと考えました。

**新江** それはですね、当初は株式会社として立ち上げようと考えましたが、NPO法人というものがあることを知りました。初めは「NPOとはいつたないなんや」という具合で全く知識がなかつたのですが、石川県が主催するNPO法人関連の研修会に参加することで、その考え方や組織的スタイルがラジオになじむことが分かり、平成20年7月にNPO法人としてのコミュニティラジオ「FMかほく」を開局しました。

**櫻井** いろいろと苦労があったのではないか。新江 そうですね。法人設立時ではまだ景気は悪くはなかつたのですが、開局前後にはリーマンショックの影響で広告のスポンサーの見込が立ちにくくなりま

**新江** なるほど、そういう考え方もあり得るのですね。ほくマガジン平成17年には季刊誌のかほくマガジンを月刊誌として発行しました。また、サラリーマン時代から印刷媒体の広告とラジオ放送で、相乗効果が生まれ、情報を伝えるのに効果的であることを経験してきましたので、緊急時にリアルタイムで情報を発信できる「ラジオ」の必要性を感じ開局を視野に入れようになりました。その根底には12年ほど前に北陸を襲ったあの大雪があります。自然災害などにによる緊急事態の時に「ラジオ」のようなリアルタイムに流れてくる情報の必要性を感じています。

**櫻井** どのような経過のもとで現在の「FMかほく」になったのですか。

**新江** それはでは、当初は株式会社として立ち上げようと考えましたが、NPO法人というものがあることを知りました。最初は「NPOとはいつたいいなんや」という具合で全く知識がなかったのですが、石川県が主催するNPO法人関連の研修会に参加することで、その考え方や組織的スタイルがラジオにじむことが分かり、平成20年7月にNPO法人としてのコミュニティラジオ「FMかほく」を開局しました。

**櫻井** いろいろと苦労があったのではないかと思うが、開局前後にはリーマンショックの影響で広告のスポンサーの見込みが立ちにくくなりま